

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100050		
法人名	株式会社 さわかや倶楽部		
事業所名	グループホーム たいよう		
所在地	〒801-0811 福岡県北九州市門司区大積 1 1 7 4 1 093-342-3300		
自己評価作成日	平成 24 年 6 月 20 日	評価結果確定日	平成 24 年 07 月 27 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな田園地帯にある小規模多機能さわやか大積館併設のグループホームである。鳥のさえずりや虫の声、四季の花々に心なごむ穏やかな暮らしを提供している。お一人お一人の思いを大切に笑顔の多い毎日が送れるよう支援を行っている。月に1度の外食レクリエーション、個別対応の外食、運動会や誕生会等の定番の行事の他にも母体会社からのケータリングでケーキバイキング等の企画も行い楽しんで頂いている。地域運営推進会議では、毎回メンバーの殆どの方の参加を頂き活発は意見交換が出来ている。町内行事、施設行事を通して地域との良好な関係が作られてきた。高校の介護課実習生の受け入れも定着し交流が図られている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山の緑に囲まれ、自然が残る門司区郊外に、小規模多機能ホーム併設のグループホーム「たいよう」がある。広い敷地は、四季を彩る花や木々が植栽され、利用者が季節を五感で感じながら、一日を大切に暮らしている。ホーム独自の理念を作り、利用者一人ひとりに合わせた職員の、介護に対する取り組みは、利用者や家族から、深い信頼を得ている。地域住民の協力和理解を得て、行事や、市民センターの活動に参加し、小学生の訪問や、高校生の実習受け入れ等、開設5年目を迎え、活発な交流が始まっている。かかりつけ医と協力医療機関を併用して、利用者の健康状態を家族と共有しながら、職員と楽しく食事をする光景は、微笑ましいものがある。また、利用者の重度化に向けて、職員の技術の向上と、意識の高揚を目指し、日々工夫を重ねるグループホーム「たいよう」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴 2 丁目 5 - 2 7 0 9 3 - 5 8 2 - 0 2 9 4		
訪問調査日	平成 24 年 0 7 月 1 2 日		

### サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前とフロアに事業所理念を掲げ管理者、職員一体となって日々実践に努めている。その方の思いを大切に地域の一員として笑顔の多い暮らしが出来るよう支援を行っている。	管理者、職員の思いを籠めたホーム独自の理念を新しく掲げ、利用者一人ひとりの思いを大切に寄り添い、地域の中で安心して笑顔の多い毎日が過ごせるよう、職員は常に理念を意識しながら質の高い介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており地域行事や施設行事へのお誘い、参加などを通じて交流を図っている。又、校区の小学生の施設訪問や高校の介護科実習生の受け入れなども積極的に行っている。	利用者と職員は、地域の敬老会、運動会、ハイキング、市民センターの勉強会等に参加し、ホームの夏祭りには、地域の方や家族の参加があり、交流の輪が広がっている。また、小学生の歌やダンスの訪問は、利用者が涙を流して喜ばれる等、大きな楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解を深めて頂くべく小学校や中学校の家庭教育学級などで働きかけを行って行きたいと思っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では毎回施設の現状や取り組み、抱負等を報告して意見や助言を頂き運営に活かしている。困難事例に対する助言なども頂いている。	会議には、地域代表をはじめ、民生委員、地域包括支援センター職員等、多数の参加があり、2ヶ月毎に開催している。地域行事の情報提供や防災の取り組み等について、活発な意見や提案が出され、充実した会議となっている。出された意見は出来るだけホーム運営に反映させている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに地域包括も入っており助言を頂いている。区の担当者とは連携を図りより良いサービス提供が出来るよう努めている。	困難事例や情報等を行政に持ち込んだり、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情や取り組みを伝え、地域密着型グループホームとしての在り方等相談しながら連携を深めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社を上げて身体拘束に関する研修を行っており、職員の正しい理解に努めている。会議や毎日の申し送り時などに話し合いを行い身体拘束を行わないケアを実践している。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、内部や外部の研修に職員が参加し、全員が理解し、共有している。また、職員同士で常に話し合い、身体拘束をしないケアの実践を目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社を上げて虐待に関する研修を行っており、施設内でも折々に勉強会を行い職員の正しい理解に努めている。職員の意識は高く、施設での事例は皆無。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会に学んでいる。又、家族会の折に説明を行った。今の所活用等の申し出はない依頼があれば対処する。	現在該当者はいないが、資料やパンフレットを用意し、職員間で理解し共有して、利用者や家族が必要な時にいつでも活用出来るよう、説明と橋渡しの支援体制がある。家族会で、制度について説明し、理解を得ている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みや入居前アセスメント時にまず説明の上疑問に答え納得を頂く。契約時には改めて十分に説明を行い疑問や不安に応え納得の上署名、捺印を頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日常的に、家族様とはお話をする機会がある時に意見、要望をお聞きしている。又、家族会やアンケート、玄関前のご意見箱の設置、会社への意見葉書等を設けている。意見、要望は運営に反映している	年2回の行事に合わせて家族会を開催し、その他にも面会時や電話等で出来るだけ話し合う機会を作り、利用者、家族の意見、要望を聞き取っている。出された意見を反映出来るよう、職員全員で努力している。	日常的にホームに入居される家族以外の方にも、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、お知らせ等を書き込んだ定期的なホーム便りの作成と、意見箱の設置を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員会議、又必要であればその都度職員からの意見や要望を聞き運営に反映させている。又毎日提出の日報や提案制度からも広く職員の意見、提案を募っている。	全体会議、ユニット会議を毎月定期的に行われ、職員の意見、要望、提案等を聞き取り、活発で有意義な会議になっている。また、管理者は、職員の悩みや心配事を聴く場を設け、環境の良い職場作りを目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の業務日報の提出、給与、賞与の査定、提案制度、社内認定講座修了者への手当支給、必要に応じて相談、又サンクスカードの推奨で職員間のよりよい関係作りなどやりがいや向上心の持てる環境作りに努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たって性別や年齢等の理由による制限は行っていない。研修、教育の機会を多く設け資格取得を奨励している。社会参加や自己実現の為会社、施設は出来る限りの環境作りに努めている。	職員の採用は、年齢、性別、資格の制限はなく、人間性や協調性を優先している。更衣室やロッカーを用意すると共に、「ありがとう」の気持ちを伝え合うサンクスカードを取り入れ、職員間の信頼と、チームワークを強くし、職員が生き生きと働ける環境を整備している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	その時々に入権教育を行っている。入居者様に対する人権の尊重については会社理念に折込済みである。全ての職務はその理念が根底にあることを繰り返し職員に伝達している。	「慈愛の心・尊厳を守る・お客様第一主義」という法人の理念の下、人権に関する勉強会が行われ、職員一人ひとりが自覚を持って利用者の人権を尊重する取り組みを実践している。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対する新人教育やトレーナー制度に始まり各人の力量に応じた各種の社内研修がある。外部研修への参加も奨励している。働きながらのトレーニングの機会は十分に整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており交流を図っている。又、会社内の他グループホームとは常に連携を図り定期的に勉強会を開催してサービスの向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの時点で本人様の思いを語って頂くべく関係作りに努めている。施設へ足を踏み入れた段階から笑顔、挨拶、声掛けを行い不安、要望に対しては真摯に向き合いその情報は職員全員で共有している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、問い合わせの時点から家族様の困っている事、不安をお聞きしよりよい関係作りに努めている。情報は職員全員で共有している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、問い合わせの時点からニーズの把握に努めている。まずは話を聞くことと考えている。その上で広い視野から他のサービス利用を含めた本当に必要な支援が出来るよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意志・思いを尊重し、選択・決定は本人様にあるということを常に念頭において支援を行っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様により良い支援が行える様、家族様と情報の共有をし合い、相談、話し合いを行っている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方のご親戚、以前の職場のご友人、昔からのご友人等時々来訪される。再来をお願いしたり本人様から依頼があれば電話での取り次ぎをしたりと支援に努めている。又、外出の際は馴染みの場所をドライブする等努めている。	遠方から「この雰囲気が好き」と時々訪ねて来られる友人や親戚の面会等で、利用者が自分を取り戻し、楽しい時間を過ごしている。また、昔馴染みお店や、病院、理・美容院等、馴染みの関係が継続出来る支援をしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に入居者様同士の関わりについては状態を把握し円滑な関わりが出来るよう気配り、目配りを行っている。コミュニケーションの取りづらい方については職員が間に入り時には代弁者になる等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方の面会に行ったり、御家族にお会いしたり時候の挨拶をかわすなどの交流は続いている。本人様、家族様から相談などがあれば応じる用意はある。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりの中で本人様の意志や意向、希望を把握するよう努めており、どんな場面でも先ずは本人様の思いを大切にしている。得られた情報は職員全員で共有して検討している。	開設当初の職員が多い事から、「以前はこんな事されてた、こんな事が好きだった」と話し合い、日々の暮らしの中で寄り添いながら、利用者の気持ちを感じ取る事を心がけている。また、困難な利用者には、家族へ相談したり、職員間で検討し把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントや日常的に本人様との会話、家族様からの情報で把握に努めている。得られた情報は職員全員で共有している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、様子観察、日常的な関わりの中で把握に努めている。得られた情報は職員間で共有している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は必ずサービス担当者会議を開催して関係者から意見を頂き作成している。又、毎月のモニタリングで検討し、ケアカンファレンス、申し送り時などで意見、アイデア等を聴取している。入居者様の状態に変化がある時はその都度見直しを行っている。	家族が出席出来る都合に合わせ、担当者会議を開催し、利用者や家族の思いを優先した介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態に変化があった時には、家族と、連絡を取りながら方針を共有し、その都度介護計画の見直しを図っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護日誌、個人記録に記入して職員間の情報の共有を図っている。その他申し送り時にも口頭で伝達を行っている。得られた情報は実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケア等のニーズが発生するものと思われる。今後の課題として準備を始めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地域包括、市民センター等地域資源との協働に努めている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の意志を尊重しかかりつけ医を決定している。現在のかかりつけ医は内科医3名、歯科医1名で良好な関係が築けている。その他必要に応じて家族様、かかりつけ医と連携を取りながら他科受診を行っている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。また、協力医療機関による往診を実施し、24時間安心して医療を受ける事ができる体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の在籍はなく訪問介護もないので看護職との連携はなし。日常の連携は其々の主治医と行っており適切な指示を頂いている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は本人様の安心の為にも足しげく病院へ出向くようにしている。その際には病院関係者とも面会して情報交換や相談を行っている。病院主催の研修会等にも出席して関係者と良好な関係が築けるよう努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤時対応確認書を頂いておりまずその時点で意向を確認し施設として出来る事を説明し納得頂いている。その後の状態変化に伴っての意志変更には柔軟に対応して行きたい。	利用者の重度化に合わせ、家族の要望や意見を聴き取り、一日でも長くホームで暮らす事が出来るよう、家族、主治医、職員等の連携を図り、方針を共有している。また、ホームで出来る事出来ない事を家族に説明し、理解してもらい、利用者の重度化に向けた支援体制がある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社が定期的に応急手当の研修を行っており職員が参加している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は月に1度実施しており、日中や夜間など様々な想定で行っている。地域には町内会長を通じて近所の方の協力の申し出は頂いている。地域との連絡網や合同の非難訓練を検討中。	消防署の協力を得て、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。毎月、自主防衛組織で色々なテーマに沿った非常災害時の訓練を実施し、非常食、飲料水の備蓄も行っている。また、AEDを設置し、利用者や地域の方の緊急時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の理念にある通り「尊厳を守る」接遇を日々実践している。様付けの徹底を行うなど言葉遣いについては特に厳しく指導が行われる。	職員は利用者を敬愛し、日常の会話も敬語を使いながら親しみを持って話している。職員の優しい声かけや温かい対応は、利用者の笑顔を引き出し、信頼の絆に結び付いている。また、個人記録は鍵のかかるロッカーで保管され、目隠し用のシールを貼る事を検討している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に言葉かけを行い希望や思いを表現したり自己決定出来るよう関わっている。自己表現できない方は表情や仕草などから思いを汲み取るべく努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のスケジュールを押し付けることなく本人様の意向を優先している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から身だしなみについて細かな支援を行っている。本人様の意向と決定を大切にしている。特に外出の際は外出着を選ぶ楽しみを味わう所からの支援を行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることはして頂き出来る限り好みに合わせた食事を提供して食事時の会話も楽しんで頂く様努めている。又、月に1度の外食やウッドデッキでの食事なども行っている。	調理上手な職員による御馳走を、利用者職員が談笑しながら楽しい雰囲気の中で食べ、「おかわり」の声が飛び交っていた。下膳の後はテーブルを囲み、時間を忘れるくらいの楽しい会話が続いていた。また、月に一度の外食は利用者の大きな楽しみとなっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量、水分量を記録して1日を通して十分な栄養、水分量が確保出来るよう支援している。好みの主食、水分にとろみをつける、きざみ食など、状態、習慣に合わせた個別の支援を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導、見守り、介助など本人様に合わせた口腔ケアを行い記録している。義歯の洗浄、口腔スポンジ使用など状態に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は介助、見守りの方も含めて全員の方がトイレでの排泄を行っている。状況は記録してケアに活かしている。	職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、早めの声かけや優しい誘導で、トイレでの排泄に向けた支援をしている。日中は全員トイレでの排泄支援を行っており、排泄の自立に向けて、リーダーが中心となり、職員全員で取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事、水分摂取、毎日の運動など便秘予防に努めている。毎日の記録と申し送りで全員の方の排便状況を確認している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴日は決めているが、本人様の希望や思いを優先し無理強いはせず柔軟に対応している。状況に応じて回数が減ることもあるが清拭を行うなど衛生面には配慮している。	入浴日は、決めているが、利用者の希望により、毎日でも入浴出来る。また、入浴を拒否する利用者に対しては、タイミングをずらして声かけしたり、声をかける職員を代えたりしながら、無理強いをせず対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペースで自由に休んで頂いている。寝具などに希望があれば家族様とも相談し希望に沿うようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフのデスクに個々の薬情がありいつでも確認出来るようにしている。服薬は全面支援しており、症状に変化が見られる時はすぐに主治医に報告している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等本人様の状況に合わせた家事を行い役割を担って頂いている。又、折り紙や習字、ちぎり絵等のレクリエーションや歌などの支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、月に1度の外食、買い物の同行、ドライブ、お花見などの季節行事等の支援を行っている。郷里へのお墓参りなど家族様の協力で実施できた外出もあり今後も出来るだけ本人様の希望を叶えるという姿勢で支援をしていきたい。	ホーム玄関前の花を見に出たり、散歩、買い物、ドライブ、お花見等、天気の良い日は出来るだけ外出の支援をしている。また、月に1度の外食や、家族の協力を得て日頃行けない場所に連れて行ってもらう等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様と相談の上本人様に応じた支援を行っている。収支をメモに記入して頂くなどの方もおられる。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の取り次ぎやかける場合の支援など行っている。手紙が届いた時は代読したり一緒に郵便局に行って切手を買って投函するなどの支援を行う。</p>		
54	2 2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>清掃の徹底を行い不快や混乱を招くような環境は作らない。壁には季節の飾りや名言、レクリエーションでの作品などを掲示している。</p>	<p>ウッドデッキからは、小川のせせらぎ、深い緑、鳥の鳴き声を楽しむ事ができ、まさに「利用者が子どもの頃住んでいた所の風景」である。また、手作りの掲示物や季節の飾り物等、利用者が季節を感じながら、穏やかに暮らす事が出来る共用空間作りに取り組んでいる。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のソファセット、玄関前のソファ等がある。</p>		
56	2 3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みの物の持込をお願いしている。外出時の写真や作品の掲示をしたり昔使っていたという家具を持ち込まれる方もおられる。本人様の好みを優先するので至ってシンプルな方もおられる。</p>	<p>居室は、利用者が使い慣れた物の持ち込みは少ないが、家族と相談しながら、掲示物、写真等を飾り、家庭的な雰囲気のある居室を作り上げ、利用者が穏やかで安心して過ごせるよう配慮している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共有フロアを囲んで各居室が配置され、対面式キッチンからフロア全部が見渡せる。いつも職員の目が届きやすい環境となっている。</p>		